

活動報告、および、専門ワーキング報告

1. 活動報告① 斐伊川河口における水鳥観察ワンコインツアーの実施

2020年冬、2021年冬に、斐伊川河口で実施した「雁が音を聴くツアー」の結果を以下に示す。

(1) 2020年ツアー催行結果

日時	[第一回] 2020年2月1日(土)17:00~18:15 [第二回] 2020年2月8日(土)17:00~18:15
集合	道の駅 湯の川(出雲市)
参加人数	(要予約・先着5組) [第一回]大人9名、小学生以下4名 [第二回]大人13名、小学生以下6名(※キャンセル6名)
参加費	500円(税込、小学生以下無料)
同行者	(一社)出雲観光協会 エピオネイチャーガイド 池田氏(両日のガイド対応) (公財)日本生態系協会
ツアー内容	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅湯の川で受付後、参加者が各自の自家用車で斐伊川河口部へ移動。 ガイドの案内のもと河口域の野鳥を観察。その後、宍道湖湖心へ飛ぶマガンのねぐら入りを観察。

(2) 2020年ツアー当日の様子



受付(道の駅湯の川)



現地へは参加者各自の車で移動



田んぼに降りた水鳥を観察



上空を飛ぶ水鳥を観察

(3) 参加者の感想等

ツアーの評価(0~10の11段階評価)を集計したところ、第一回は8.6点、第二回は9.0点と、いずれも高い評価を得た。

当日の受付の際、「当日受付はしているのか」「応募したが満員だった」という声もあり、アンケート結果から見ても、安価であれば十分な需要が期待できると考えられる。

【評価の理由・感想】

- 普段気にしていなかった風景がすばらしいと分かった
- とても良かった、良い機会をもらった
- 案内がとても丁寧でわかりやすかった
- とても感動して癒された、また見に聴きにきたい
- 近所にこんな場所があるなんて知らなかった
- マガンの飛び立つ姿が圧巻でした

(3) 2021年ツアーの特徴

2020年末から出雲観光協会と協議を進め、ツアーは以下の条件で企画を検討した。

- 基本プランは、交通・宿泊の手配を含まない、安価で短時間な現地集合型ツアーとする
- 地域の魅力を伝えるため、水鳥観察のほか、出雲地域の文化的・歴史的視点を組み入れる。
⇒ 求院八幡宮(出雲市出西)の今吉宮司に、ツアーへの同行、講話を依頼し、承諾いただいた
- オプションとして夕食・温泉付きのプランを用意。夕食については、大型水鳥にちなんだメニューを用意。
⇒ 四季荘(湯の川温泉)と協議、割引価格での提供について承諾いただいた
- 出雲観光協会のスタッフがガイドとして活動できるよう、事前に協議や下見を兼ねた研修を行う。



夕食付プランで提供した夕食

(4) 2021年ツアー催行結果

日時	[第一回] 2021年1月30日(土)17:00～ [第二回] 2021年2月 7日(土)17:00～
集合	道の駅 湯の川(出雲市)
参加人数	(要予約・先着5組) [第一回]大人5名、小学生以下3名 [第二回]大人8名、小学生以下4名
参加費	観察プラン 500円(税込、小学生以下無料) 観察・夕食付プラン 大人2,300円 小人 ¥1,200円 ※会場: 四季荘(入浴付き、ツアーオリジナル料理の提供)
主催	(一社)出雲観光協会
協力	斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥と共に生きる地域づくり検討協議会・(公財)日本生態系協会
ツアー内容	<ul style="list-style-type: none"> • 道の駅湯の川で受付後、参加者が各自の自家用車で斐伊川河口部へ移動。 • ガイドの案内のもと河口域の野鳥を観察。その後、宍道湖湖心へ飛ぶマガンのねぐら入りを観察。

(5) 2021年ツアー当日の様子

昨年度と比較して、第一回のツアーは空席きが出るなど、予約数が減少。他方、参加者からの評価はおおむね高く、悪天候だった第一回でも、友人や知人へ薦めたいとする評価が多くを占めた。

参加者は全て出雲市、松江市在住である一方、こうした大型水鳥が多く暮らしていることをこのツアーで初めて知ったとする意見も多かった。



求院八幡宮・今吉宮司のお話



水田に降りた水鳥を観察



マガンのねぐら入りを観察



ねぐらへ向かうマガンの編隊飛行

2. 活動報告② 中海周辺におけるインバウンドモデルツアー(中海ツアー)の実施

2020年2月に中海周辺で実施した、外国人を対象としたモデルツアーの結果を、以下に示す。

観光振興

地域ブランド確立

地方創生

(1) ツアー催行結果

目的	(一社)山陰インバウンド機構が募集し活動している、山陰の魅力を世界に発信するボランティア「山陰国際観光サポーターズ」(※)のメンバーを対象に、中海周辺における景観・歴史文化・水鳥等の観光資源について訪日外国人観光客のニーズを把握するため。
日時	2020年2月15日(土) 8:15~15:00
集合場所	出雲市駅、松江駅、安来駅
参加人数	山陰国際観光サポーターズ9名(申し込みは11名)
同行者	(一社)山陰インバウンド機構、米子水鳥公園、安来市商工観光課、米子市文化観光局観光課、環境省大山隠岐国立公園 松江管理官事務所
現地ガイド	出雲織のき白鳥の里 青戸氏、 (農)ファーム宇賀荘 岡田氏、 米子市文化振興課 小林氏

※ 山陰国際観光サポーターズ:
留学生や語学教師という立場で在留する外国人で構成
約20か国、20~40代、100名ほどが登録

(2) ツアーコース、訪問箇所



No	地点名称
1	出雲織のき白鳥の里
2	ファーム宇賀荘(ふゆみずたんぼ)
3	米子城跡
4	粟嶋神社
5	米子水鳥公園

(3) ツアー当日の様子



出雲織のき白鳥の里(安来市)、
青戸氏より出雲織の紹介



ファーム宇賀荘の管理する
ふゆみず田んぼの前(安来市)で、
岡田氏よりコハクチョウと田んぼの
関係について紹介



山陰のオリジナル丼を提供する
和食店「こめ蔵」で昼食



同行者の米子水鳥公園
神谷氏による粟嶋神社
(米子市)の紹介



粟嶋神社より、中海と米子水鳥公園
(つばさ池)を臨む



米子水鳥公園会議室で
意見交換

(4) ツアー参加者等からの感想

参加者より、立ち寄り場所や料金等について意見があった。場所については概ね高評価を得られた。他方、各地の訪問時間や滞在時間について課題を得た。

この他、運営側より、ガイドの質の確保についても意見があった。

全体の工程について

- 立ち寄る場所はいずれもとても良かった。しかし、各地の滞在時間が短い。実際にツアーを行うなら、1つの地点にもっと余裕があると良い。(欧米系)

立ち寄り地点・ガイド内容について

- 出雲織は、例えば糸巻の体験が出来ると良いと思った。(欧米系)
- 今回のスケジュールだと、ハクチョウのねぐら立ちまたはねぐら入りが見られないのが残念。夕方に来るともっと良い景色が見られると案内されてもイメージがしづらい。難しい時間ではあるが、水鳥の魅力が一番感じられるところだと思う。(アジア系)

ツアー料金について

- 所要時間や立ち寄る場所によっても異なるが、昼食は個人負担の場合で考えて、3000~5000円程度であれば、リーズナブルだと思う。(アジア系、欧米系)
- 香港の人は自由に動くことを好むため、レンタカーの利用が多い。5000円以上だとレンタカーを選んでしまう。(アジア系)

国内の観光地の整備について

- 日本の美しい風景のある場所に、リラックスできる(座れる)ような場所がほしい。中海等の周辺にそのような施設があると良い。(アジア系)
- 看板に英語の記載がないことが多い。素晴らしいと感じても、それが何なのか、何のためのものか分からない。(欧米系)
- 英語表記の対応が難しいのなら、英語のWebページを用意し、そのQRコードを張り付けると良いと思う。QRコードが読めないこともあるので、アドレスも明記するとなお良い。(アジア系)

3. 活動報告③ 宍道湖・斐伊川環境フェアの実施

2020年2月に出雲科学館で実施した、「宍道湖・斐伊川環境フェア～水鳥が大好きな斐伊川の自然～」の結果を、以下に示す。

(1) 開催結果

日時	2020年2月23日(日)10:00～15:00
場所	出雲科学館(出雲市)
主催	宍道湖・斐伊川環境フェア実行委員会 (国土交通省出雲河川事務所、環境省大山隠岐国立公園 松江管理官事務所、島根県、松江市、出雲市、雲南市、山陰中央新報社)
開催内容	<p>1.ブース出展 主催団体のほか、ホシザキグリーン財団、NPO法人未来守りネットワーク、コウノトリの会春殖、雲南市立大東小学校、同西小学校、里山笑楽校が参加・出展。</p> <p>2.クイズラリー 展示内容をもとにクイズに挑戦するイベントを実施。参加者は計190名。</p> <p>3.〇×クイズ大会 水鳥に関する〇×クイズを実施。最後まで正解だった参加者に景品を贈呈。 午前15名、午後15名参加。</p>
参加者	計500名

(2) 開催の様子・アンケート結果

参加者(500名)のうち、子どもと親世代である30代・40代が多く占めた。出雲科学館の集客力が高く、この施設に来ていた来館者が同フェアに立ち寄りというケースが多かったと考えられる。

また、アンケート結果(回収数:100)からは、出雲市のトキの一般公開について約半数が、雲南市のコウノトリの営巣について6割が「前から知っていた」と回答した。他方、「生態系ネットワーク」については8割以上が「今回初めて知った」と回答した。



ブース出展の様子(展示物等をもとに、クイズラリーに挑戦)



クイズラリー参加者に贈る
缶バッジ制作の様子



〇×クイズ開催の様子

4. ワーキング開催概要

2020年度に開催された専門ワーキングの開催概要は、以下の通り。

農地環境ワーキング

日時	2021年2月4日(木) 9:30~11:30
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室
主な議題	① 出雲・雲南圏域における取り組みの報告 ② 地域の農業者との協議、および今後の進め方



会議の様子

地域振興ワーキング

日時	2020年12月3日(木) 9:30~11:30
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室
主な議題	① 協議会の愛称・シンボルマークの選定 ② 大型水鳥類を活用した観光振興



会議の様子

環境学習ワーキング

日時	2021年2月10日(水) 14:00~16:00
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室
主な議題	① 環境学習プログラム集の利活用 ② 大型水鳥類を活用した効率的な環境学習の手法



会議の様子

5. 農地環境ワーキングの開催

(1) 概要

2021年2月4日(木)に、農地環境改善の担い手の確保に向けた、地域の農業者との協議に関して、自治体の農政担当者が参加し、議論をおこなった。

日時	2021年2月4日(木) 9:30~11:30	
場所	国土交通省 出雲河川事務所 1階大会議室	
参加メンバー	島根県 農林水産部産地支援課	宮崎 弘文
	松江市 産業経済部農政課	陶山 聡史
	出雲市 農林水産部農業振興課	遠藤 邦博
	雲南市 農林振興部農政課	落部 大
	雲南市 政策企画部地域振興課	鶴原 隆
その他	協議会参加自治体の関係部署	
	国土交通省 出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
主な議題	① 出雲・雲南圏域における取組報告 ② 農業者との協議および今後の進め方 ③ 協議会の愛称・シンボルマークの選定	



(2) 主な議事内容

1. 出雲・雲南圏域における取組報告

- 出雲・雲南圏域において昨年度から検討を続けている水田の土水路保全に関して、土水路所有者に課題や意向等を尋ねる目的で今年度実施したアンケート調査の結果について、雲南市より説明。(参考資料)

◇ワーキングメンバーからの意見等

交付金等の補助制度について

- 国が実施している環境保全型農業直接支払交付金という制度の中にある、地域特認メニューとして土水路の整備を要望することも可能。

2. 農業者との協議および今後の進め方について

- 昨年度の本WGメンバーである3自治体(出雲市・雲南市・松江市)において、本WGの趣旨に賛同し協力を得られそうな農業者がいるかどうかヒアリングを行い、当該農業者を対象とした説明の機会を設け、意向聴取及び情報収集を実施した。(参考資料)
- 今年度の取組みの経過とともに、次年度以降の取組みについて、意見交換を行った。(参考資料)

◇ワーキングメンバーからの意見等

賛同者の拡大のために必要な取組みについて

- 農業生産へ影響する部分もあるため、農業者が受け入れやすくなるようなメリットの提示も必要。
- JAのような関係団体への協力要請と併せて、補助金による支援制度や意識づけのための啓発活動が必要。トキをシンボルとした農業も進めかたのひとつ。
- 県では、農林水産基本計画を策定し、有機JAS認証の拡大など施策の重点化をしている。



関係団体の協力を仰ぎながら、土水路の整備等を中心とした農地環境改善の意義について理解、協力を得るべく、各種補助金制度等の活用や将来的なブランド化なども視野に入れつつ、農業者へのアプローチを継続・拡大していく

6. 地域振興ワーキングの開催

(1) 概要

2020年12月3日(木)に、圏域の自然環境を活用した観光、愛称・シンボルマークの選定に関して、圏域の観光振興の担い手等が参加し、議論をおこなった。

日時	2020年12月3日(木) 9:30~11:30	
場所	国土交通省 出雲河川事務所 1階大会議室	
参加メンバー	エピオネイチャーガイドオフィス 代表	池田 友紀
	(一社)出雲観光協会 事務局長	斉藤 謙一
	神門通り甦りの会 代表	田邊 達也
	山陰インバウンド機構 事務局長	堀江 隆典
	中海・宍道湖・大山圏域観光局 代表理事	矢野 正紀
その他	協議会参加自治体の関係部署 環境省大山隠岐国立公園 松江管理官事務所	
	国土交通省 出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
主な議題	① 協議会の愛称・シンボルマークの選定 ② 大型水鳥類を活用した観光振興	



(2) 主な議事内容

1. 協議会の愛称・シンボルマークの選定について

- 第7回協議会において了承された方針に従い、圏域に所在するデザイン会社(4社)を対象にメンバー全員で投票を行い、愛称等作成に向け交渉を行うデザイン会社の順番を決定した。
- 愛称、および、シンボルマークの候補を対象に、2021年度に一般投票を行う予定であることを説明した上で、「**一般投票を通じて、斐伊川水系生態系ネットワークの取り組みを広く知ってもらおう**」ことを基本方針とした一般投票の展開方策について、意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

投票方法について

<投票を呼び掛けるとよい対象(≒年齢層)や、そのための告知や集票の方法等について、意見をいただいた>

- この大型水鳥類を守っている流域住民に参画いただいて決めていくのが適切。圏域の自治体に協力を呼びかけることが重要。
- 子どもたちにもわかりやすい、生態系ネットワークのねらいをしらせた上で投票してもらおうのが望ましい。
- 事務局から提案のあった方法では、投票者が中高年にかたよる可能性がある。子どもからこの取り組みの周知を広げていきたい。学校に告知し、投票を働きかけることができると良い。
- 特に若い層に伝えるためには、SNS等のメディアツールを活用していかなければならない。各自自治体の観光協会のインスタグラムやツイッター等で紹介してもらってはどうか。

コーディネーターについて

- 前年度に続き、神門通り甦りの会代表の田邊氏を愛称・シンボルマークの選定に関するコーディネーターとして選任した。



一般投票にかける愛称・シンボルマーク候補(3案)、および、一般投票の進め方等については、議事(4)にて詳述する。

2. 大型水鳥類を活用した観光振興について

- 2019年度に実施したツアーから得られた課題点を整理し、ツアーの継続実施に向け、2020年度の観光振興企画について意見交換を行った。

両ツアーの課題点と、考えられる対応策(案)

	斐伊川河口ツアー	中海ツアー
課題	継続的なツアーの開催に向けた、観光協会を中心とした主体的な運営体制づくり 等	各観光拠点における滞在時間が短い。大型水鳥類が観察できる時間に訪れたい 等

(ワーキング資料より抜粋)

◇ワーキングメンバー等からの意見等

〈両ツアーの課題を踏まえた対応策等について、意見交換を行った〉

観光振興の進め方について

- 大型水鳥のみで人を集めるということは想像しにくい。水鳥を一つのキーワードとして、地域の方との交流につながるようなツアーができればと思う。
- 大型水鳥や自然に関わりのある「人」にフォーカスを当てた観光を展開することが重要。自然だけでは写真を撮って終わりになるおそれがある。
- 全体構想の中期目標にある「ガイドの育成」について。単に、自然や生きものに詳しい人ではなく、おもてなしの心を持っている人、地域の自然を守り、地域を盛り上げていきたいと思う人がガイドに向いている。
- 斐伊川河口ツアーについて、定期的にツアーを行うことができれば、ガイドの育成につながる。



会議後、関係主体との協議を行い、ツアーの企画検討を進めた。

【斐伊川河口ツアー】

- ・ハクチョウ伝説のある地元神社へ、ツアーでの解説を依頼。
- ・観光協会による運営に向け、観察ポイントの設定方法等の助言や、水鳥解説資料を作成。
- ・コロナ対策も兼ねて、自家用車での参加方式で2回催行。

【中海ツアー】

- ・外国人向けツアーに加え、山陰在住者向けのモデルツアーを検討。
- ・各拠点での体験を重視し、滞在時間を十分に確保するとともに、ハクチョウのねぐら入りの時間に合わせたコースを設定。
- ・コロナ対応として、両ツアーともに催行を見合わせ、下見のみ実施。

◇斐伊川河口ツアーの催行(報告)

イベント名	雁(かり)が音(ね)を聞くツアー
主催	(一社)出雲観光協会
協力	斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥と共に生きる地域づくり検討協議会・(公財)日本生態系協会
日時	第一回 令和3年1月30日(土)、第二回 2月7日(日)
料金	観察プラン 大人1人 ¥500(税込) ※小学生以下無料 観察・夕食付プラン 大人 ¥2,300 小人 ¥1,200 ※会場:四季荘(入浴付き、ツアーオリジナル料理の提供)
募集人数	各日5組(車5台) ※先着順、要予約
参加人数	第一回 2組(大人5名、小学生以下3名 計8名) 第二回 5組(大人8名、小学生以下6名 計14名)
感想 (一部抜粋)	「飛んだ時の感動を味わえる」「普段全く見ることでできない物が見れてとても楽しかった」「思った以上にがんのむれがかっこよかった」「私も、子どもも、こうふんしました」「地元の人が気づいていない観光資源。こども向けにぜひ！」



求院八幡宮・今吉宮司のお話



水田に降りた水鳥を観察



マガンのねぐら入りを観察



夕食付プランで提供した夕食

◇中海ツアー担当者会議の開催

日時	2020年12月4日(金) 10:00~12:00	
場所	米子市役所旧庁舎 605会議室	
参加メンバー	米子市総合施策部総合政策課 室長	松本 謙次
	米子市経済部文化観光局観光課 課長補佐	桑本 大輔
	米子市市民生活部環境政策課 主任	宮中 僚介
	安来市役所政策推進部商工観光課 主事	村社 哲志
	米子水鳥公園 館長	神谷 要
	(一社)山陰インバウンド機構 事務局長	堀江 隆典
	(一社)山陰インバウンド機構マーケティング部 アシスタントマネージャー	松川 由依
その他	(公財)日本生態系協会	
主な議題	① ツアー内容 ② 取り組みの展開	

ツアー内容について

- 「日本の稲作文化が水鳥の生息を支えている」という視点はどうか。また、水鳥の紹介だけでなく、酒や米の販売などもあると良い。
- このツアーならではのニッチな体験を用意すれば、集客に繋がるのではないかと。外国人は日本の特徴的なところを体験したい。寒い野外であっても、貴重な体験ができるのであれば、しっかり時間をとることを望む。

取り組みの展開について

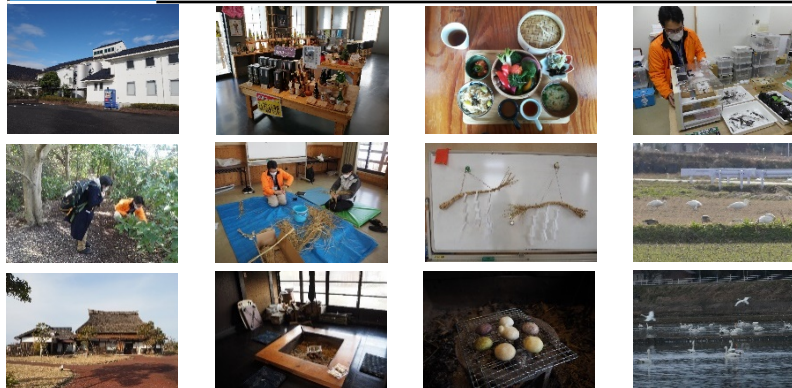
- 旅行会社が注目していなかった場所を選定し、打ち出すのがいいだろう。旅行会社には、既に商品化されている地域のよい観光地とセットにして自然や鳥を組み込んでもらうといいだろう。
- いきなり地域住民対象の有料ツアーを催行するよりも、まずは観光協会など、観光業界の方々に参加してもらい意見交換する形式が良いと思う。



ハクチョウと稲作文化をテーマとしたツアー内容とし、このツアーならではの体験イベントを組み込む。外国人向けはモニターツアー、日本人向けは観光業者と対象としたファムトリップを造成する。今後、ツアーのコンテンツを取り入れてもらえるよう、観光業者にアプローチをする。

◇中海ツアーの概要、下見の実施

イベント名	中海が教える日本の原風景を楽しもう！ ハクチョウと日本の稲作文化を楽しむ 中海ツアー
実施日	2021年2月5日(金)
主催	斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥と共に生きる地域づくり検討協議会 山陰インバウンド機構(外国人向けのみ)
料金	無料(ファムトリップ・モニターツアーの扱いのため)
行程	米子駅(集合)⇒蔵元 稲田本店(酒蔵見学)⇒米子水鳥公園(ヴィーガンの昼食・館長によるバックヤードツアー・しめ縄づくり)⇒白鳥ロード(採食風景の見学)⇒出雲織のき白鳥の里(囲炉裏で餅焼き・出雲織の見学)⇒ファーム宇賀荘(水田でハクチョウのねぐら入り見学・意見交換会)⇒安来駅(解散)



当日の様子

◇観光協会へのヒアリングの実施

〈ツアーの開催に代えて、安来市観光協会へのヒアリングを実施した〉

ツアー内容について

- テーマに沿った体験が可能な施設や、ファーム宇賀荘の農産物を使用した商品を販売している施設があり、コンテンツとしての利用が考えられる。

取り組みの展開について

- 協力を得られそうな市内の観光業者を紹介できる。バスツアーを開催しているので、本ツアーのコンテンツを取り入れてくれるかもしれない。
- バスツアーの移動経路に白鳥ロードを組み込んでもらえることがある。

7. 環境学習ワーキングの開催

(1) 概要

2021年2月10日(水)に、圏域における環境学習の進め方について、議論をおこなった。

日時	2021年2月10日(水) 14:00~16:00	
場所	国土交通省 出雲河川事務所 会議室	
参加 メンバー	NPO法人 国際交流フラワー21 しまね花の郷 理事長	青木 広幸
	出雲市農林水産部農業振興課 朱鷺のまち推進室 室長	梶谷 房生
	(公財)中海水鳥国際交流基金財団 米子水鳥公園ネイチャーセンター 常務理事兼事務局長	神谷 要
	NPO法人 いずも朱鷺21 理事長	原田 孟
	(公財)しまね自然と環境財団 島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課企画幹	星野 由美子
	(公財)ホシザキグリーン財団 ホシザキ野生生物研究所 所長	森 茂晃
	キコニアまなびネット 代表 (雲南市立西小学校 元校長)	和田 邦子
その他	協議会参加自治体の関係部署	
	国土交通省 出雲河川事務所	
	(公財)日本生態系協会	
主な議題	① 環境学習プログラム集の利活用 ② 大型水鳥類を活用した効率的な環境学習の手法 ③ 協議会の愛称・シンボルマークの選定	

(2) 主な議事内容

1. 環境学習プログラム集の利活用について

- 2019年度に、圏域の環境学習施設や環境学習の推進団体が提供可能なプログラムを集めた「環境学習プログラム集」を作成した(参考資料)。
- 大型水鳥類を活用した環境学習の推進に向け、2020年度は米子市、出雲市、雲南市の小学校を対象にプログラム集を送付。学校における環境学習の推進状況や、環境学習プログラムの導入に関する関心を問うアンケートも、あわせて送付した。
- アンケート結果をワーキングに示し、意見交換を行った。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- 現在環境学習をやっていない学校に入っていくのは、難しいのではないかと。学校以外の団体や施設、例えば児童クラブに持って行くことも考えられる。
- 施設や団体により特性があり、ねらいは異なってくると思う。環境学習は、豊かな自然環境に対する「気付き」で終わりではなく、その環境を守るという意識の変化まで持って行かなければならないと思う。
- 今回のアンケート結果を、直接、今後の展開に活かすことは難しいと感じるが、生態系ネットワークや大型水鳥を活用した環境学習に関心を示した学校には、個別にアプローチをしかけていくことが望ましい。また、そうでない学校についても、それが学校の総意とは限らない。ここにいるメンバーの特徴を生かしつつ、働きかけを続けていくことが望ましい。
- とにかく発信を継続していくことが重要。



今回のアンケート結果より、大型水鳥類を活用した環境学習に関心を示した学校等へ、プログラム集や施設等の活用について働きかけを行っていく。

同時に、学校における環境学習を授業等へ組み入れる上での課題についても情報収集を進め、対応策の検討をメンバーとともに進める。

2. 大型水鳥類を活用した効率的な環境学習の手法について

2019年度に、圏域の環境学習施設に写真パネルや等身大パネルを設置する「写真巡回展」を開催した(右写真)。このイベントを軸に、より学びを深めてもらう方法等について検討を行った。

パネルの活用について

これまでに協議会が参加したイベントにおいて使用してきた等身大パネルや写真パネルの活用先や活用方法について、事務局案を交え、意見交換を行った。

事務局からは、学びの場以外における活用を含め、以下の案を示した。

活用先	活用方法
環境学習施設	<ul style="list-style-type: none"> 冬鳥飛来シーズンにあわせて入り口に設置し、冬鳥が観察できる季節となったことを来館者に知らせる。 環境保全を目的としたイベントにあわせて設置し、これから行う作業の意義について伝える時に利用。
学校	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座での活用。
観光施設	<ul style="list-style-type: none"> 冬鳥の飛来にあわせ、道の駅など人が多く訪れる場所に設置し、冬鳥の観光シーズンが始まったことを知らせる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 良好な水辺の景観をのぞむ施設に貸し出し、フォトスタンド等として活用してもらう。 水辺環境の保全に取り組む企業等に貸し出し、CSR活動を広報するためのツールとして活用してもらう。 環境に配慮した商品を販売する店等に貸し出し、そうした商品を取り扱う店舗であることを知らせるために活用してもらう。

◇ワーキングメンバーからの意見等

- 鉄道駅や道の駅などの観光施設にパネルを置くことができれば面白い。
- 展示とあわせてのクイズは面白い試みだと思うが、学習施設のように参加者に対応できる者がいないところでは難しいかもしれない。
- 大型商業施設にもこうした展示物を置けるスペースがある。そうした場所での展示も考えられる。
- 写真展の開催に貸し出し可能な教材も保有している。



2019年度写真巡回展の様子(左:米子水鳥公園、右:出雲市トキ公開施設)

写真巡回展の開催にともなう、見てもらえる仕掛け、学びを深くするための工夫について

写真巡回展の開催とあわせ、より大型水鳥や生態系ネットワークの取り組みについて関心を持ってもらうための仕掛けについて、以下の2点を事務局案として示した。

1. パネルなどから得られる情報をベースとしたクイズラリーの企画
(来訪者に問題用紙を配布し、答えてもらう)
2. クイズ参加者に贈る「記念品」
(大型水鳥類や、生態系ネットワークの取り組みを伝えるものをモチーフとした缶バッジなどを作成し、参加者に配布)

次年度に開催する写真巡回展に向け、各施設が対応可能な日程などについて調整を進める。

同時に、以下についても準備を進める。

- クイズラリー用の問題の検討・作成
- クイズラリー参加者への記念品の作成
- 各学習施設等への、追加展示物の提供依頼